回　覧

「自助」「共助」「協働」で災害に強い街づくりをめざそう！

岸根町町内会自主防災だより（第 22 号）

２０２４年（令和６年）６月　自主防災部発行

朝や夕方に、ペットの散歩風景を多く見ることができます。昔は家の番人として犬小屋がありましたが、今は見ることもなくなりました。ペットは、外で飼うことなく家族の一員として住んでいます。今回は、大規模地震発生時における**ペットの災害対策**について考えてみましょう。

自宅が被害甚大で居住することが危険な状態の時には、災害拠点に避難することになります。

ペットももちろん一緒に避難することになります。**（安全が確認できましたら在宅避難ですね）**

東日本大震災の時に、「ペットと一緒に避難する」ということが浸透していないことから、ペットを自宅に置いて避難したり、戻って飼い主が二次被害も巻き込まれた事例もあったそうです。

（※ひろしまを学ぶ　2023 年 7 月 28 日より一部転載させて頂きました。）

ただし、**避難所では飼い主と同室では過ごすことはできないこと**を知っておいてください。体育館の軒下や屋外で飼い主が持参したケージやキャリーバックなどで飼育することになります。災害拠点までのルートや避難場所を確認しておくことも必要ですね。

ペットと一緒に避難所までの道のりを確認しておくと、いざという時に役立つかもしれません。

災害時には、人命優先ですからペットの救援物資が届くまでには時間がかかることを念頭に、普段から避難用品や備蓄用品の確保をしておきましょう。

- **避難に必要なケージなど**
- **5～7 日分のペットフード、水、食器**
- **普段用いている薬品など**
- **予備の首輪、伸びないリード**
- **トイレ用品**

◆飼い主が行うべき対策の例

平常時

- 住まいの防災対策
- ペットのしつけと健康管理
- ペットが迷子にならないための対策（マイクロチップ等による所有者表示）
- ペット用の避難用品や備蓄品の確保
- 避難所や避難ルートの確認等の準備

災害時

- 人とペットの安全確保
- ペットの同行避難
- 避難所・仮設住宅におけるペット飼育マナーの遵守と健康管理

［※環境省　災害時におけるペットの救護対策ガイドラインより一部抜粋］